

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月23日現在

機関番号：35402

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530998

研究課題名（和文） 中等教育段階における日本人移民と日系アメリカ人の歴史についての教材開発

研究課題名（英文） Developing new teaching materials for high school students to use to understand the history of Japanese immigrants and Japanese American

研究代表者

田中 泉（TANAKA IZUMI）

広島経済大学・経済学部・教授

研究者番号：00279051

研究成果の概要（和文）：日本人移民および日系アメリカ人の歴史を理解し、正しく認識するための中等教育の社会科系教科・科目の新しい教材として、ハワイおよびアメリカ西海岸に残る日本人町とそこにある日本人・日系人のための施設、日本人・日系人墓地にある墓石、移民を送り出したことが分かる日本にある石碑などを撮影した写真、現地で発行された日本語新聞の記事や日本人移民・日系アメリカ人の体験記録や回顧録が有効であることが明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In order to develop new social studies teaching materials that high school students can use to properly understand the history of Japanese immigrants and Japanese Americans, I brought to light pictures of Japanese towns and cemeteries in Hawaii and the U.S. West Coast, Japanese newspapers published in those place, and reminiscences written by Japanese immigrants and Japanese Americans.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	
2010年度	600,000	180,000	
2011年度	500,000	180,000	
年度			
年度			
総計	2,900,000	900,000	

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：教材開発・歴史教育・日本人移民史・日系アメリカ人史・カリフォルニア・ハワイ・日本人町

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始するに至った動機は、現在の中等教育の社会科系教科・科目において欠如していると思われる日本人移民と日系アメリカ人の歴史についての教材を開発する必要があると考えたことにある。

その背景として、次の2点を挙げるこ

できる。

(1) 現在、グローバル化の進展によりモノ・カネに加えてヒトの国境を越えた移動が増加し、日本においても1990年代以降、労働や移住を目的とする外国人の流入が急増した。将来的にも少子高齢化が進むと予想され

る日本社会において外国人労働者のさらなる確保が必要とされている中で、マイノリティとしての外国人の問題が顕在化している。その問題には、言葉の違いによるコミュニケーション不足や制度の未整備による生活上の権利の侵害に加え、日本人の異文化に対する認識不足や誤った認識から生じる偏見や差別がある。

とりわけ外国人登録者の約 20%を占める日系人に対する偏見や差別は、日系人という存在自体についての認識不足や誤った認識が原因であると思われる状況があるからである。それは、一般的に日本に暮らす日系人の多くが、名前や容貌が日本人的であるにもかかわらず、日本語会話能力は低く、文化的にも日本ではなく出生地のものを受け継いでいる人びとが多いためである。

(2)現在日本に住む日系人は、1880年代から1960年代までに、おもに西日本各地から、ハワイや南北アメリカ大陸各地へ、労働、つまり金銭獲得を目的に移民した人びとの子孫である。このため、移民には、「貧困であったが故に、日本から出て行かざるを得なかった人びと」、「日本を捨てて出て行った人びと」、「日本から見捨てられた人びと」などの否定的な見方を伴ったイメージがある。このため、現在の日系人に対しても、偏見を持たれがちである。

また、現在、日本から海外駐在や留学などによって海外で日系人と仕事や生活の上で接触することが増えているが、ここでも日系人についての認識不足や誤った認識によって、同様な問題があり、互いに敬遠したり、無視したりするような状況が生じている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の2点を可能とするために、日本の将来を担う子どもたちが、日本人移民および日系アメリカ人に対する誤解や偏見を持つことなく、かれらの歴史を理解し、正しく認識するための新しい教材を開発することである。

(1)中学校歴史的分野および高校地理歴史科日本史の授業では、中学生や高校生が、近代日本社会の形成過程において多くの人びとが日本から海外へ移住した事実とその背景を認識することで当時の日本社会の状況を理解するとともに、アメリカ合衆国などの移住先で日系人が経験した歴史を理解し、正しく認識することで、現在も日系人が存在することの意味を理解し、また、日系人に対する認識不足や誤った認識から生じがちな偏見や差別などの問題を未然に防ぐことができる。

(2)高等学校地理歴史科世界史では、19世紀後半から20世紀初頭における世界的な移民の活動について学習、とりわけアメリカ合衆国への移民の急増を同国の多民族多文化社会化および経済的発展の原因と捉える中で、日本の高校生にとって比較的身近に思われる日本人移民および日系アメリカ人の歴史を理解し、正しく認識することで位置付け、世界史学習に対する意欲・関心を高めるとともに、世界史上の移民についての認識を深めることができる。

3. 研究の方法

中等教育段階における日本人移民及び日系アメリカ人の歴史を理解し、正しく認識する教材開発を行うために、概ね次のような順で調査研究を行った。

(1)カリフォルニア州（おもにサンフランシスコとその周辺）、ワシントン州（おもにシアトルとその周辺）およびハワイ州（おもにオアフ島ホノルル、ハワイ島ヒロとコナ）を訪問し、日本人移民・日系アメリカ人の歴史を扱う諸機関や移民史資料館を訪問し、当時の新聞や写真、VTRなどの第一次史料を収集するとともに、日本人移民および日系アメリカ人史に関わる史跡・施設を探し、教材となる資料を収集した。

(2)訪問先で日本人移民および日系アメリカ人の歴史を研究し、カリキュラムや教材を開発している教育関係者にインタビューして、その方法論や工夫などを聞き取った。また、日本人会や県人会など現地に住む日系アメリカ人のコミュニティ関係者を訪問し、インタビューして、現在の日系アメリカ人のアイデンティティや歴史認識を理解した。

(3)日本で入手可能な20世紀初頭からハワイおよびカリフォルニアで刊行されてきた日本語新聞については、マイクロフィルムを購入して記事や広告を読み取り、当時の日本人移民および日系アメリカ人の動向・考え方などを認識することのできる記事や広告を選び出した。

(4)教材集および学習指導案、教授書などを作成し、日本社会科教育学会など社会科教育関係の学会で発表を行った。

4. 研究成果

3年間の調査研究を通して、中等教育の社会科系教科・科目において日本人移民・日系アメリカ人の歴史を理解し、正しく認識するため効果的な教材を新たに発掘、収集することができた。

それらの教材は、視覚教材と読取教材に大

別することができる。

(1) 視覚教材は、次の3つの範疇に分けることができる。

①日本人・日系アメリカ人が現地で生活していた状況を理解することができる視覚教材である。サンフランシスコやサンノゼなど今も存在する日本人町、およびシアトルやホノルルなどにあるかつての日本人町の跡、そしてそこに現在も存在する日本料理を提供するレストラン、日本製品を販売する商店、ホテル、仏教寺院、神社、日本人移民・日系アメリカ人のコミュニティのための施設などの外観と内部の様子である。また、そこで見ることのできる日本料理（寿司、天ぷら、麺類、丼物など）、年中行事（正月、ひな祭りなど）、さくら祭り、盆踊り、慰霊祭などのコミュニティの行事も対象となる。これらは、現在の日本にあるものとの共通点や相違点を考察することで、中・高校生が文化的な継続性や変容を認識するのに有効である。

また、ほとんどの日本町には、日本人移民史資料館や日本文化センターがあり、日本人移民・日系アメリカ人の当時の日常生活が分かる品物や書類、写真などが展示され、また、第二次世界大戦中に西海岸諸州の日本人移民・日系アメリカ人が収容されていた転住センター（強制収容所）の内部が復元されているのも教材として有効であることが分かった。

②日本人移民・日系アメリカ人の死亡・埋葬についての状況を理解することができる視覚教材である。サンフランシスコ近郊のコルマ、ホノルルのマキキ、ハワイ島ヒロのアラエなどにある日本人・日系人墓地も教材として有効なものであることが判明した。すなわち、日本人・日系アメリカ人のための墓地があること自体、日本人移民や日系アメリカ人がアメリカ社会の中で差別されてきた証拠である。

墓石に刻まれた被葬者の生没年、年齢、日本での原籍地名などから被葬者の置かれた状況を知ることができる。生没年からは死亡時の年齢も判明するが、加えて、例えばハワイの砂糖プランテーション地帯にある墓地では、乳児や幼児での死者が多いことから、その当時の過酷な労働状況や劣悪な育児・衛生環境が推測できる。また、原籍地名からは、広島県、山口県、福岡県、熊本県など移民送出が多い地域内部の地理的特徴が分かる。このような日本人・日系人墓地の具体的な状況は、いまだ、日本では文献的にも紹介されておらず、墓石に刻まれた文字を写真撮影して教材として利用することは、価値があると思われる。

③日本国内の地域で、移民を送出したことが分かる視覚教材である。例えば、移民送出を記念した石碑や、移民先から日本の寺社に寄付をしたことを記した石灯籠や石碑などに刻まれた日本人移民・日系アメリカ人の住所・名前などである。具体的には、多くの移民を送出した広島市内の海岸地域にある神社でそれらを撮影して教材とすることができた。

(2) 読取教材としては、移民先のアメリカ本土やハワイで当時発行された日本語新聞やコミュニティ誌と、日本人移民や日系アメリカ人によって書かれた体験記録や回顧録が教材として利用できることが分かった。

①日本語新聞には、世界的なニュース、アメリカ国内およびハワイのニュースや、日本国内のニュースのほか、日本人・日系人コミュニティに関わる情報、広告などが掲載されている。日本のニュースは、移民先の人びとが遠く離れた故郷日本の出来事に関しても関心を持ち続けていたことが分かる教材となる。コミュニティに関わる情報では、祭り・法要などの行事や人びとの動静が分かる記事のほか、求人・求職、不用品の引き取りなどを知らせる掲示板があり、コミュニティ内の人びとが必要としていた情報からその生活の一端を知る教材として使用できることが分かった。

広告欄には、日本人・日系アメリカ人が経営する商店、レストラン、旅館、運送業者、旅行代理店、医者などが広告を載せており、彼らの経済活動を知ることができるだけでなく、日本人・日系アメリカ人が自分たちの言葉が通じる同胞が経営する施設を積極的に利用していたことが分かる。それは、逆に言えば、アメリカ人や他の民族の施設を利用し難い状況が想像でき、当時の日本人移民・日系アメリカ人コミュニティの閉鎖性を知ることができる教材として利用できることが分かった。

②日本人移民や日系アメリカ人によって書かれた体験記録・回顧録は、近年、かなり多く出版されている。移民初期の1880～90年代のもので移民する動機や契機、背景が分かるものは少ないが、それ以後の、二世・三世によって書かれたものは、日系アメリカ人の苦難の体験を知るための教材として有効であることが分かった。それは、日本人移民だけでなく、アメリカ生まれで市民権をもつ日系アメリカ人でありながら、アメリカ社会の中で差別や偏見に苦しむ状況が記録されているからである。

とりわけ、日本軍の真珠湾攻撃以降、日本人移民・日系アメリカ人が他のアメリカ人か

ら受けた攻撃的態度、一世である日本人移民とともにアメリカ市民権をもつ二世・三世など日系アメリカ人が居住地の西海岸から財産を処分して内陸の転住センターへ強制収容されたこと、二世や三世の一部がアメリカ軍（陸軍第442戦闘連隊など）へ志願しヨーロッパ戦線で献身的に戦い功績をあげて戦後の日系アメリカ人の地位向上に貢献したことなどについての記述は、彼らがおかれた状況や彼らの考え方をよく表しており、日本の歴史や世界の歴史との関連性もあり、教材として効果的かつ適切であることが明らかになった。

以上のように発掘、収集した教材は、実際に学校現場で使用されて初めて有効な教材であるといえる。そのためには、これらを公にする必要があるが、その手段としては、一般的に行われる冊子としての出版ではなく、むしろ、直接、学校の授業で利用できるようなCD-ROMでの配布や、ウェブサイトでの公開が望ましいと思われる。現在のところ作成中であり、まだ完成していない。また、単に教材を提供するだけでなく、同時に、教材を効果的に使用するための解説、学習指導案、教授書を作成する必要があることが、明らかになった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

- ① 田中泉「世界の歴史と日本の歴史のつながりを認識する高等学校地理歴史科の教材開発ー最初の日系アメリカ人ジョセフ=ヒコ（濱田彦蔵）を事例にしてー」『広島経済大学研究論集』、査読無、第33巻第4号、2011年、pp.9-2
- ② 田中泉「シアトル日本町の今」『広島経済大学研究論集』、査読無、第32巻第4号、2010年、pp.113-123

〔学会発表〕（計1件）

田中泉「世界史学習における日本人移民史の教材開発ーグローバル・ヒストリーの視点でー」日本社会科教育学会第61回全国研究大会 2011年11月22日 北海道教育大学札幌校

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 泉 (TANAKA IZUMI)
広島経済大学・経済学部・教授
研究者番号：00279051

(2) 研究分担者

該当者なし

(3) 連携研究者

該当者なし